

# 上手への大きな徒渉地

## 柏という地名はアイヌ語源で↑こういう意味

「か・し・わ・い」に「柏井」と当て字した地名は、市川市を流れる真間川南岸にあり、愛知県にもある。これはアイヌ語源で、「上手(北方)への大きな徒渉地」という意味になる。その名付けられた時期は、海水面がいまより十メートルも高かった縄文海進期(六千―七千年前)で、後世になって「柏井」の「井」を省略したのが「柏」と推測される。

風土記を作るように命じられた七三一年に、地名は漢字二字と要望され、「湾の渡し場」という意味の「うし・くし・い」の「い」を省略して「牛久」、「湾奥の浜」を意味する「あさむ・びし」の「あさむ」に「我孫」、「びし」に「子」を当て字して「びし」と読ませて「び」一字を節約したのに三文字になったのが『我孫子』地名となる。いずれもアイヌ語源である。

これは、南逆井居住の地質学者・理博の木下浩二氏が説かれるところで、それぞれ異なる時代に中国大陸から来日した①藍田原人(ニグブン)②北京原人(アイヌ)、そして③倭人という三種族で古地名が構成されているという。木下氏は地名の語源を知ることによって、本当の日本の歴史が分かり、いままでとは違った歴史を教えてください。

柏市といっても、かしの古木はない。写真は野田市の上花輪歴史館のかしの老樹。同館では、この葉で柏餅を作り、六月の第一土・日に特別販売をする。



## 字としての柏は 三百年前から？

柏という地名は、柏駅から近い曹洞宗・長全寺の観音菩薩像などの石像物に見え、一基には延宝三年(一六七五)とあるという。長全寺で、若い坊さんがさがしてくれ、多分これだろうというのが右の写真である。残念ながら無縁仏扱いで、何基かが集められていて、これと思われるものの背中にブロック塀がピッチリくっついて立てられており、背中を読むことは出来ない。それ以前の金石文は見つかっていない。近世の柏村は、小金宿(いまの松戸市)と我孫子宿の中間にあつて、水戸道の通過点に過ぎず、町場としての発展はみられなかったという。

